

審議会等の会議結果報告書

課所名

水道局営業課

会議名 令和3年度 第1回 諏訪市公営企業運営審議会

開催日時 令和3年9月30日(木) 午後2時00分より

出席者 <委員> (敬称略)
藤森 貫治(会長)、渋江 利明(副会長)、有賀 秀子、武田 なつ子、
守屋 照代、吉江 徳男、辰野 博之
<諏訪市(事務局)>
茅野 徳雄(水道局長)、後藤 浩美(営業課長)、山寺 弘文(施設課長)、
成田 大悟(営業課庶務係長)、後藤 準市(営業課料金係長)、
乙黒 勝美(施設課上水道係長)、矢崎 泰宏(施設課温泉係長)、
蟹江 利成(施設課下水道係長)、武居 正剛(営業課庶務係主査)

資料 【資料1】 令和2年度諏訪市公営企業会計 決算書
【資料2】 令和2年度諏訪市公営企業会計決算審査意見書
【資料3】 各会計決算の概要
【資料4】 温泉熱発電実証試験の延長について

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会

2 会長あいさつ

3 事務局(水道局長)あいさつ

4 報告

(1) 令和2年度諏訪市公営企業決算について

事務局より【資料1】から【資料3】に基づき、令和2年度の各事業の決算の概要を説明
《質疑等》

委員： 新型コロナウイルス感染症の影響で、有収水量が減り収入が減った。ワクチン
接種などが進み、旅館などにもお客さんが戻りつつあるように感じるが、有収水
量に変化は生じているか。

事務局： 令和2年度の有収水量を分析すると、巣ごもりの影響により家事用の有収水
量は令和2年度に比して増加したが、営業用の有収水量は大幅に減少してい
る。今年度に入り、営業用の有収水量が令和2年度に比して増加している月も出
てきている。今後もこのまま水量が増加することを期待したいが、新型コロナウイ
ルス感染症の拡大状況に大きく左右されるところ。

委員： 下水道を処理する際に生じた残物について、どのように処理されているのか。
先日の報道で、残物を肥料等に有効活用している市町村があると報道されてい
た。諏訪市の取り組み状況は。下水道の処理に多額の費用がかかっている。残
物を再利用等し、有効に活用できればよいと思う。

事務局： 諏訪市の場合、共同処理として長野県所管のクリーンレイク諏訪において行っ
ているため、市として処理はしていない。汚水処理の残物については、県におい
て循環型社会を意識し、適切に処理されていると聞いている。

委員： 最近自然災害が多い。先日テレビでマンホールトイレが紹介されていたが、諏
訪市には設置する計画はあるのか。

事務局：令和2年度の事業として、諏訪市文化センターにマンホールトイレ10基を設置する工事を行った。今後も広域避難所を中心に設置すべく検討を行っていきたい。

委員：温泉の契約戸数が年々減っているが、新型コロナウイルスによる要因は出ているか。

事務局：手続時に窓口で話を聞く限りは、新型コロナウイルスの影響で温泉契約を解約する例は少ない。空き家になってしまったり、リフォームにより温泉をやめてしまったりするケースがほとんどである。

委員：移住してきて温泉契約する事例はあったか。

事務局：毎年何件かある。

委員：温泉の収益が減っている中ではあるが、宿泊施設等を中心とした減免等を実施したことを評価したい。決算書を見ると、公衆浴場が44件あるが、これは何を指すのか。

事務局：主なものは、各地区にある所謂共同浴場である。

委員：新型コロナウイルス感染症の影響を受け、宿泊施設などではお風呂の個室化、プライベート化が進んできている。各地区にある共同浴場の動向として何か把握していることはあるか。

事務局：共同浴場は、各地区の温泉組合が主体となって運営しているところ。水道局として運営しているわけではないが、温泉組合の役員の方からよく聞く話として、加入者の減少により運営が苦しいとのこと。各地区における高齢化が進み脱退者が増えていること、施設の老朽化により費用が増えていることなどがあげられるとのこと。

委員：共同浴場のみならず、市と温泉契約を結ぶ者も年々減っている。地元で長く住んでいると、温泉の配管における管理費用がかかることなど、デメリットが目につきやすくなってしまう。配管が傷むということは、成分が潤沢ということで、温泉としては「いい温泉」である。温泉を続けること、加入することなどの良さをもっとPRできないか。観光の世界では、上諏訪温泉の知名度は非常に高い。家庭でも楽しめるメリットを見つけて、加入者促進につなげられるよう検討されたい。

事務局：水道局としても、試行錯誤しているところ。市全体としても空き家の対策を始めており、その売買時に温泉を紹介してもらったり、市役所内でも移住を担当する部署に情報提供の依頼などを行ったりしてもらっている。エリアは限定されてしまうが、温泉が各家庭に供給できるのは珍しい事例である。毎年新規加入者はいるものの、人口の減少等により加入者数の減少に歯止めがかからない状況でもある。

委員：温泉に加入していると、水道の使用量にもよるが、水道料金、下水道使用料あわせて、1回の請求(2か月分)で水道局に約4万円支払をしている。高齢世帯は支払に大変な状況である。また、家を建て替える際に温泉をやめる人も多い。温泉は蒸気が出るが、今の家は気密性が高く、家が傷みやすくなることが主な理由。これからは個人の温泉契約を増やすのは難しいと感じている。

委員：先日ラジオで JR 上諏訪駅の足湯が紹介されていた。温泉を家庭で使う、お風呂で使うという以外に何か活用方法を検討してみてもは。

(2) 温泉熱発電実証試験の報告について(あやめ源湯)

事務局より【資料4】に基づき、温泉熱発電実証試験について報告

《質疑等》

委員： 実証試験が終了し、本格稼働するにあたり先が明るい見通しということでしょうか。

事務局： 8月まで1年間実験をした結果、メーカーが提示している電力量を発電できる能力は確認できた。しかしながら、不具合が多く機械が停止している期間が長かった。実証試験を延長することとなったが、メーカーにおかれてはこの点も含めて改良を行ってもらうことになる。改良された機械の状況を見て、最終的に導入するか否かを判断することになる。

委員： 再生可能エネルギーは大切なこと。メーカーには改良を頑張ってもらい、ぜひ不具合を解消してちゃんとしたものにしてほしい。

委員： ここにきて、再生可能エネルギーは脚光を浴び始めている。温泉熱を利用した発電はしばらくトレンドになると思う。時代の流れを先行してやっていることなのでぜひ成功させてほしい。

委員： 故障の原因は、あやめ源湯の温泉の成分が原因なのか。

事務局： 発電機に源湯の温泉が直接入っていないので、成分が原因ではなく、耐久性など機械的な問題である。

委員： 再生可能エネルギーは今注目を集めている分野。メーカーと協力して、スピード感をもって対応してもらうことを望む。

委員： 温泉熱とは話が変わるが、温泉については先ほどからいろいろな意見が出ている。個別給湯については、これからますます厳しさを増し、今後が心配される。温泉について、メリットとデメリットの話があったが、これを具現化してPRしてほしい。デメリットばかり出てきてしまい、やめる人がどんどん増えてくるのが心配。一昔前は、温泉は「裕福」の象徴だった。今でも温泉の魅力を感じている人は少なくないと思う。見える化を進めてぜひ加入者の増加につなげてほしい。

(3) その他

委員： 8月の大雨について。自宅周辺のトイレが使えなかった。雨水がマンホールに入ったことが原因と聞いているが、大雨はこれからも増えると思われる。ぜひ調査等を行い、大雨が降ってもトイレが流れるよう改善してほしい。

事務局： 長野県諏訪湖流域下水道事務所が中心となり、今年度から下水道への雨水流入について調査を行う予定。市としても、県と協力し、改善に向けて善処したいと考えているところ。

委員： 浸水したところでは汚水の臭いがすごかった。今後温暖化が進みこのようなことが起こる可能性は高いと思う。衛生的にもよくないので、汚水がマンホールからあふれだすことがないようにしっかりと対応してほしい。

事務局： ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。水道局として確認できたところ及び住民の方から御連絡をいただいた場所については、消毒等を行わせていただいた。万が一にも同じようなことが起こったら、連絡をいただければ、消毒等の対応をさせていただきます。

委員： 下水道は、他の市町村も接続しているため、諏訪市だけが頑張って排水量を減らしても意味がない。他市町村はどんな対応をしたのか。

事務局： 接続する他市町村においても節水を心掛け、排水量を減らすよう行政防災無線等で広報をしていただいた。